

「東北ずん子」の戦略紹介と これまでの実績・現状・今後の展望

SSS 合同会社

CEO 小田 恭央



ポケモンやガンダム、プリキュアが日本国内の中小企業、個人は無料で利用できるようになる世界を想像してみてください。もしそんな世界が訪れたら地元のみならず世界中にそのキャラクターの商品やサービスが出回って面白いことになる、という夢が広がるかと思います。

ただ、現実はもちろんそんな「おいしい」話はありません。キャラクターの権利は著作権として制作者が持っておりその著作権という資産を使って個別に許諾をしてライセンス料を受け取り、商売をする仕組みになっているからです。また、コンテンツの制作には莫大なお金もかかります。

アニメは3か月13話で制作費約3億円がかかります。アニメはほぼ宣伝みたいな物なので制作費を回収するためにもしっかりとライセンス料を取ることでコンテンツ運営を進めていくこととなります。

1. 無料で使える東北ずん子誕生と

そのビジネスモデル

さて、ポケモンやガンダムのように有名でかつ、無料で使えるキャラクターが生まれたら、という視点で誕生したのが東北ずん子です。ただ、これまでのコンテンツのように単純にアニ

メをつくって流行を生み出し、そして著作権料で回収する仕組みでは無料で使えるようなビジネスモデルになりません。

では東北ずん子ではどうしたのかというと、「コンテンツをファンにつくってもらう」という仕組みにしました。音声合成ソフトやイラスト、3Dモデルなどを無料で公開し、それをファンに使ってもらうことでファンがイラストや動画を作成する。ファンの制作したイラストや動画を見てさらにファンが増えていく。この好循環ループを作り出すことでファンが継続的に増え、そして3か月毎に3億円を使ってコンテンツを作り続けるという多大なコストが発生しない仕組みができあがったのです。

東北が無料、それでは東北ずん子の運営であるSSS合同会社がどこで利益を出しているのかというと「東京やその他の地域でのライセンス収入」です。ソーシャルゲームなどのコラボやグッズへのライセンス供与によってメインの収入を確保しています。

2. 東北ずん子の誕生のきっかけは

東日本大震災から

東北ずん子は2011年の東日本大震災をきっかけに誕生しました。コンテンツを扱っている



東北ずん子

東北きりたん

東北イタコ

ずんだもん

人間として東北を元気にするには、というテーマで取り組んでいるのが東北ずん子です。通常、コンテンツには流行り廃りがあります。多くのアニメは3か月の放送後終了します。アニメの最中にはファンがドットと押し寄せますが、アニメが終わるとほとんどのコンテンツは波が引いたように静かになってしまいます。

この波をなくさないように、長期で流行りが作り出せるようにしたのが「ファンがイラストや動画を作りたくなる仕組み」の構築で、東北を元気にするためにやっていることが「東北企業が無料で使える」というライセンス形態です。

3. 東北ずん子の登場でなにが起きたか

東北ずん子が登場し、音声合成ソフトなどに対応することでファンがYouTubeやニコニコ動画に動画投稿するようになりました。現在では東北ずん子関連動画の総再生数は1億再生を突破しています。

また、東北ずん子の登場により東北でいろいろな商品が生まれています。東北ずん子のお米

があったり、CDがあったり、こけしがあったり、フィギュアがあったり、チーズケーキから温麺など様々な商品が誕生しました。

さらに、地域の人々が東北ずん子を使ってクラウドファンディングをしてイベントをすると言った使い方まで広がっています。地域でやるクラウドファンディングでは30万円から100万円くらいが調達額になることが多いのですが、東北ずん子の場合は地域の人々が企画した物でも300万円以上が集まったりしています。これまで補助金でやっていた事業をクラウドファンディングに切り替えたおかげで継続的に実施できることになり、さらに自由度も増して



東北ずん子スタンプラリーのクラウドファンディング
東北ずん子の公式運営ではなく、宮城県白石市の有志の会が企画・立案・運営している

新しいチャレンジもできる、ということにつながっています。

4. テレビ放送にも進出

2021年10月から12月まで、東北ずん子のミュージックパラダイス、という番組が東北放送でTV放送されました。30分アニメの制作費は13話で3億円と書きましたが、東北ずん子の番組では5分枠で制作、さらに制作費を限界まで抑えて400万円程度で作りました。

いくら放送時間を削っても映像制作はお金がかかります。5分の番組13話ですと、アニメ作品では通常3000万円かかってしまいます。それを400万円まで下げられた理由は「ファンが投稿した品質の良い作品を紹介する」という形式をとったからです。つまり、映像をほとんど作らず、ファンの動画の利用許可を取ってつなげる（つなげる部分のみ映像を作成する）という事で制作費を抑えました。

放送を東北放送のみにしたのは今回は実験的な取り組みだったからで、もう少し面白くする仕組みを作って何度か検証をし、それで継続してみんなが「面白い！クチコミしたくなる」というところまで作り込みができればあとは継続するだけになります。今後はテレビで継続して東北ずん子のアニメを流す仕組みも作っていかうと進めています。

ここが大事なところで3億円をかけてTV放送を続けるのは企業でも相当胆力が必要です。しかし、東北ずん子のやり方をすれば30分枠でも3000万円くらいの制作費で3か月のアニメを続けることができます。だからこそ東北ずん子は東北では無料で使えるという仕組みが継続できます。

5. 新しい技術を取り込むコミュニティ

東北ずん子のプロジェクトでは新技術を様々取り込んで大きくなっています。しゃべる音声合成があるおかげで動画投稿が増え、ボカロなどの歌う音声合成があるおかげで楽曲やミュージックビデオが投稿されて広がりがでてきます。

3Dモデルを使えばVR空間で東北ずん子になることもできます。また3Dを使うのが難しい、という人に向けてパワーポイントで使える3D等も提供しており、パワーポイントで東北ずん子の3Dを使えばだれでも簡単にマンガなども作ることができるようになっています。（3Dのポーズを選んで向きを変えればいろんな絵を作成できるのです）

今後はボイスチェンジャーなどにも挑戦していくよう進めています。ボイスチェンジャーがあればVR空間やボイスチャットなどで東北ずん子の声になることができさらに広がりができます。またリアルタイムの動画実況などにも応用できるので東北ずん子を使って動画を投稿する人がさらに増えていきます。

また、口の動きから音声を作り出す技術に対しても投資をしています。口の動きから声を作ることができれば例えばうるさい電車の中とかでも音声通話ができるようになり、さらに動画投稿などに拍車がかかることでしょう。

これらの技術を自社で全て開発するのは資金がいくらあっても足りません。ですので「音声合成に使える専用のボイスデータを公開する」ということをしています。研究者や開発者からすると面倒な「データ制作」をやって公開し、一番楽しくて取り組み甲斐がある研究や開発の部分は研究者コミュニティでサービスが生まれる

ような流れを作っています。

ここまで見てきたように「東北ずん子はファンの力で動画やイラストが増える」というのと同じように、ファンの力で新しい技術も生まれるようなコミュニティを作り出しており、実際にそこから音声合成ソフトが生まれ、ボイスチェンジャーも誕生しつつあります。

また技術への投資はお金がかかるのでそこはクラウドファンディングで支援を募ることが多いです。東北ずん子プロジェクトでクラウドファンディングをすると1000万円以上の支援が集まるようになっており、何度もクラウドファンディングをすることで新しい技術がどんどん生み出されています。



東北ずん子の姉、東北イタコのクラウドファンディング。ファンの支援で2300万円が集まった。

6. 来年は東北ずん子のマスコットキャラクター「ずんだもん」が人気に

東北ずん子プロジェクトですが、東北ずん子の姉「東北イタコ」や東北ずん子の妹「東北きりたん」、東北ずん子のマスコットキャラクター「ずんだもん」などの周辺キャラクターも人気があります。これらのキャラクターも東北企業であれば無償でイラストの利用が可能です。

現在、ずんだもんにはかなり力を入れており、ずんだもんでさまざまな先端技術の検証をしています。東北ずん子と違ってずんだもんで多

少の失敗をしても許されやすい(マスコットなので)特性があるので、無料の音声合成ソフトを出してみたり、ボイスチェンジャーなどにもずんだもんで優先して検証しています。

話は少し変わりますが、昔はアイドルや歌手の世界はソロでの活躍が多かったです。しかし現在はAKBやももクロなどグループでの活動がメインとなっています。仮面ライダーなども昔は1人のヒーローでしたが今では複数のヒーローがでることが多いです。

東北ずん子でも同様に早期にユニット/グループでの活動に切り替えてどんどん人気も上がってきています。実は「主人公キャラ」というのはどこの運営が制作してもある程度似たり寄ったりになりがちで、周辺キャラクターの方が「差別化」がしやすいので、グループとして活動した方がコンテンツの特徴が生まれやすいためです。

このような形で「コンテンツ面」「テクノロジー面」「コミュニティ面」「コスト削減面」の様々なところで工夫されて進めているのが東北ずん子です。今後もさらに楽しい東北ずん子ワールドが広がっていきますので、ぜひ東北ずん子というコンテンツを楽しみつつ、そして東北ずん子は東北企業では誰もでも使えるので東北ずん子コミュニティの一員になってください。